

令和元・2年度
鹿児島県租税教育研究委嘱校

租税教育の実践



屋久島町立安房中学校

目次

I はじめに

- 1 屋久島町の概要
- 2 安房地区及び本校の概要

II 研究の概要

- 1 研究主題
- 2 研究主題設定の理由
- 3 研究の目標
- 4 研究組織
- 5 全体計画及び年間指導計画

III 研究の実際

- 1 令和元年度の実施内容
- 2 生徒の実態 ～租税教室前の税に関するアンケートをもとに（令和元年6月実施）～
- 3 租税教室前のアンケート結果の考察
- 4 第一回租税教室の実施
- 5 税の作品への取組
- 6 3年社会科の研究授業を通しての実践
- 7 租税教室，研究授業後の生徒の変容 ～アンケートをもとに（令和元年12月実施）～
- 8 令和2年度租税教室の実施
- 9 令和2年度租税教室後の生徒の変容 ～アンケートをもとに（令和2年9月実施）～

IV 研究のまとめ

- 1 研究の成果
- 2 研究の課題
- 3 おわりに

I はじめに

1 屋久島町の概要

屋久島町は、平成 19 年 10 月 1 日に上屋久町と屋久島町が合併して誕生した新町である。

位置は、鹿児島市から南方 135 km、県本土の南方約 60 kmの海上にあり、屋久島とその西北西約 12 kmにある口永良部島の 2 島からなっている。総面積は 54,048 km²で、内 93%を占める屋久島は周囲 132 kmの円形の島で九州最高峰の宮之浦岳 (1,936m) を筆頭に、標高 1,000m 以上の山が 45 座以上あり、多くを山岳部分で占められていることから、洋上アルプスと呼ばれている。このため傾斜地が多く平坦地が乏しく、一圃場当たりの区画面積が狭い島である。1993 年 (平成 5) 年には、樹齢数千年の屋久杉をはじめとする特殊な森林植生や、亜熱帯から冷温帯に及ぶ植生の垂直分布など、屋久島の貴重な自然環境・自然資源が世界的な評価を受け、我が国で最初の世界自然遺産に登録された。気象は多量な雨が特徴的で、年間平均降水量は平地で約 4,500mm (山間部は 8,000~10,000mm) と、日本の年間平均降水量の 2 倍をはるかに超える量で、その半分近くが 5 月から 8 月に集中している。気温は、亜熱帯に位置しているため、平地では年間平均気温約 20 度と温暖であるが、屋久島においてはその標高差により亜熱帯から冷温帯の植生分布がみられる特異性から、山岳部では冬季には積雪も見られる。

口永良部島は長径 12 km、最大幅 5 kmの美しい緑の火山島で、今なお噴煙をたなびかせる新岳 (標高 626m) がそびえ、島の海岸周辺の随所には良質な温泉が湧き出ている。また島の面積の 3 割以上を竹林が占め、比較的傾斜の緩やかな地域は天然の牧野の役割を果たしている。

2 安房地域及び本校の概要

本校は、屋久島の南東に位置し、屋久島町では 2 番目に人口の多い安房地域に所在している。校区内にある安房港には高速船が就航し、宮之浦港と並んで屋久島の海の玄関である。地域の産業は、世界自然遺産である屋久島を訪れる観光客を対象とした観光業、近海で行われるトビウオやサバ漁等の漁業、人工林である屋久杉の地杉の管理・伐採・販売を目的とした林業、屋久杉を活用した建築資材及び工芸品の加工等の製造業、さらに温暖で多雨な気候を利用したポンカン・タンカンの栽培等の農業なども行われている。また、豊富な湧き水を利用した焼酎造りも盛んであり、「三岳」や「屋久の杜」など、特産品として全国的に有名である。

本年度 74 周年を迎え、令和 2 年 10 月現在の学級数は 5 学級(特別支援学級 2 学級)、在籍生徒 87 人、職員 17 人(特別支援教育支援員 2 名を含む)の小規模校である。

中学校校区内には、安房小学校が一枚だけであり、その小学校の児童のみが本校に入学する。生徒は、義務教育 9 年間を同じ集団で過ごし、生徒同士強い絆で結ばれており純朴で素直である。

本年度の学教教育目標に「郷土を愛し、自ら学び、たくましく、共に生きる」を掲げ、諸教育活動を通して目標達成に向けて取り組んでいる。



II 研究の概要

1 研究主題

主権者として社会参画意識を育む教育の在り方
～租税教育における取組を通して～
～思考力・判断力・表現力の育成を目指して～

2 研究主題設定の理由

国税庁では、次代を担う児童・生徒が、民主主義の根幹である租税の意義や役割を正しく理解し社会の構成員として税金を納め、その使い道に関心を持ち、さらには納税者として社会や国の在り方を主体的に考えようとする態度を育てることを目的として租税教育を実施している。

鹿児島県の租税教育は、「租税に関連した事項を通して郷土について関心を高め、公民としての資質を身に付け、国家及び社会における権利と義務の主体者として、自主的に判断し行動するための諸能力を育てる」と示されている。

令和元年度に鹿児島県租税教育推進協議会より、令和元年度・2年度の租税教育研究校の委嘱を受けた。研究に向けてアンケートを実施・分析した結果から、本校生徒の税に対する関心は全体的に低く、税について正しく理解している生徒も少ないことが分かった。

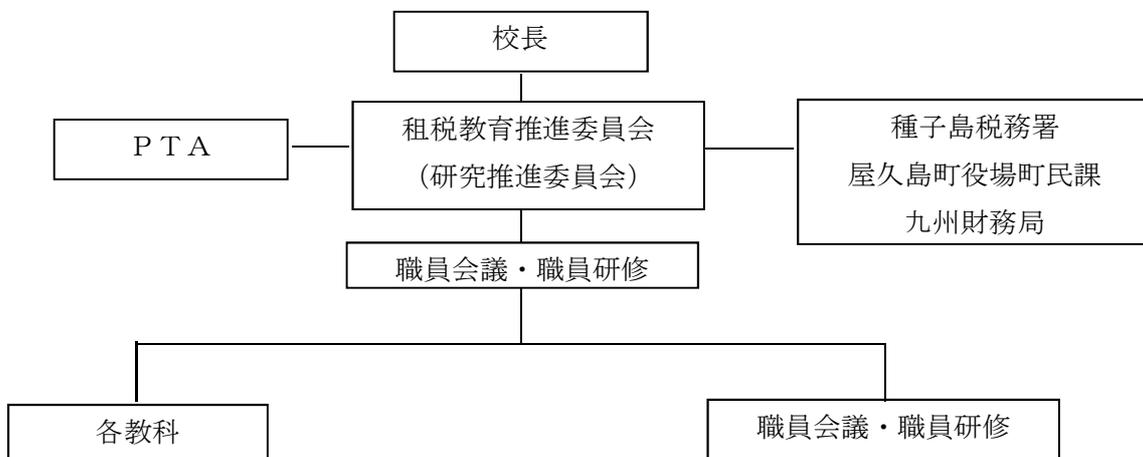
そこで、本校では租税教育を進めるにあたり、将来の主権者として、納税者として税についての関心を深め、税への意義や役割を正しく認識させること、また、国や地方公共団体の行政活動に対する理解を深め、将来の良識ある主権者として、公共物を大切にする態度を養うことを目指して租税教育を推進したい。

そのために種子島税務署や屋久島町役場などと協力し、税に関する授業や作品制作に取り組みせ、私たちの生活に租税が果たす大きな役割について理解を深めさせるとともに将来の主権者として税金の使い道に関心をもたせ、社会参画意識を育成したい。

3 研究の目標

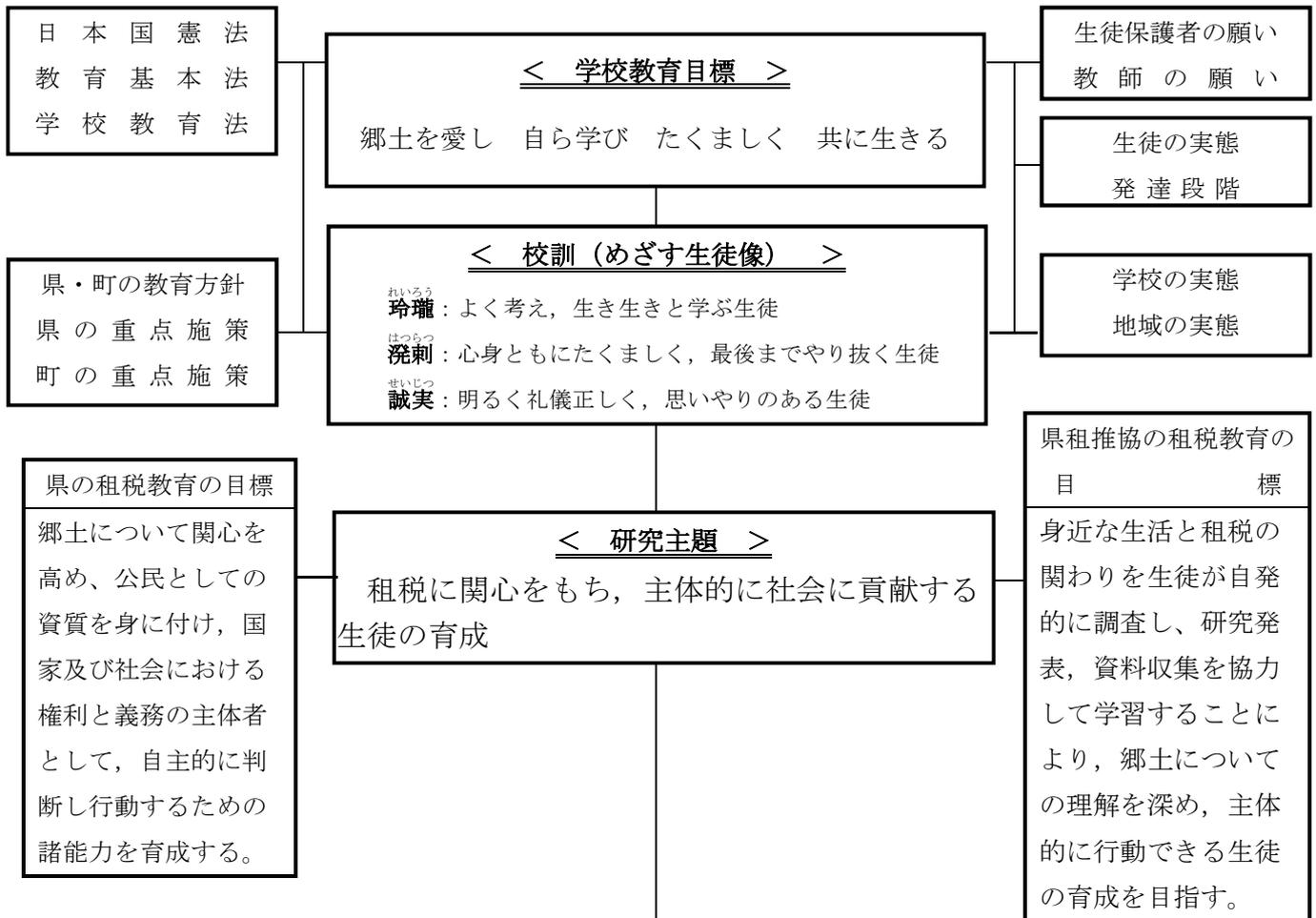
- (1) 税についての興味・関心を高め、租税の意義や役割を正しく理解させる。
- (2) 租税と私たちの生活との関わりを理解させ、将来の税負担者としての意識をもたせる。
- (3) 主権者として社会参画意識を高めるとともに、公共物を大切にする態度を養う。

4 研究組織



5 全体計画及び年間指導計画

(1) 全体計画



学年の重点目標		
1 年	2 年	3 年
租税について興味・関心をもち、租税や租税に関する様々な知識を身に付けさせ、自分たちの生活に生かそうとする態度を育成する。	租税について興味・関心を高め、様々な情報から租税の意義や大切さを学び、そのことを情報発信していく主体的な態度を育成する。	租税について興味・関心を広げ、租税に関する知識や情報を主体的に活用し、自主的に社会に貢献できる態度を育成する。

教科との関連	道徳	特別活動	総合的な学習の時間	広報
各教科の目標に沿い、租税に関する関連事項の指導を行い租税についての興味・関心を高める。	郷土愛を育み、よりよい社会を築くための責任感や義務感を養い、意欲的に社会へ貢献しようとする態度を身に付けさせる。	租税教室を通して、集団の一員としての自覚を深め、よりよい集団生活を築いていこうとする態度を育成する。	租税に関するさまざまな実践活動を通じて、税が屋久島の環境に生かされていることを理解し、主体的・創造的に取り組む態度を育成する。	租税についての啓発を図り、家庭や地域社会との連携を深める。

(2) 令和元・2年度 「租税教育」の年間指導計画

ア 令和元年度の年間指導計画

月	内容
5	租税教育研究推進校委嘱状の交付 研究主題, 計画の決定
6	税に関するアンケート調査 第1回租税教室の開催(6/21)種子島税務署より 職員研修「租税教育について」(6/21)種子島税務署より
7	学期反省 税に関する作品の応募
9	税に関する作品の出品
10	「租税教室講師養成研修会」への参加(担当者)
11	「鹿児島県租税教育研究会」への参加
12	学期反省
1・2	第2回租税教室の開催(1/17) 税に関するアンケート実施 来年度の計画作成
3	学期反省

イ 令和2年度の年間指導計画

月	内容
4	年間計画の確認 税に関するアンケート調査
6	第1回租税教室の開催(6/17)屋久島町税務課予定
7	学期反省 税に関する作品の応募
9	税に関する作品の出品 税に関するアンケート実施
10	「鹿児島県租税教育研究会」に向けての準備
11	「鹿児島県租税教育研究会」への参加・発表
12	学期反省
1・2・3	租税教育の総括

Ⅲ 研究の実際

1 令和元年度の実組内容

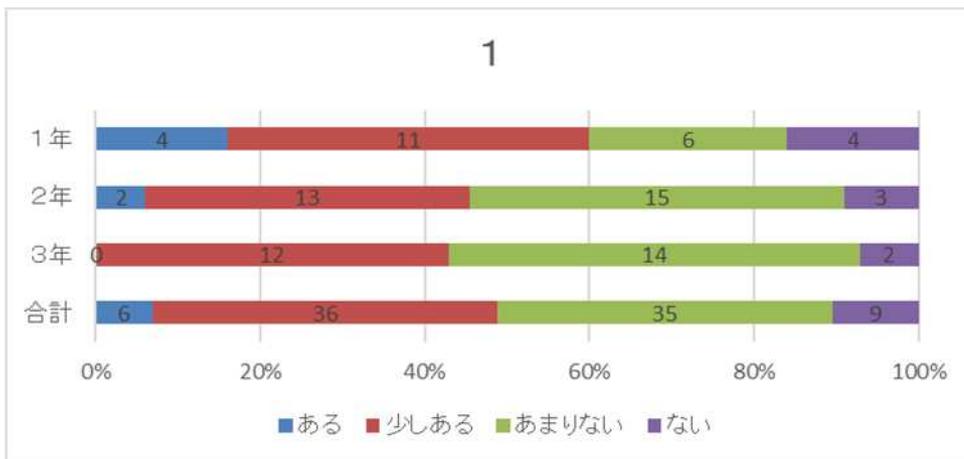
- ア 第一回租税教室の実施
- イ 税の作品への取組
- ウ 研究授業を通しての実践
- エ 第二回租税教室の実施

2 生徒の実態 ～租税教室前の税に関するアンケートの実施～

租税教育を始める前（令和元年6月）に全校生徒を対象にアンケートを実施した。アンケートでの調査項目は、以下の8項目である。

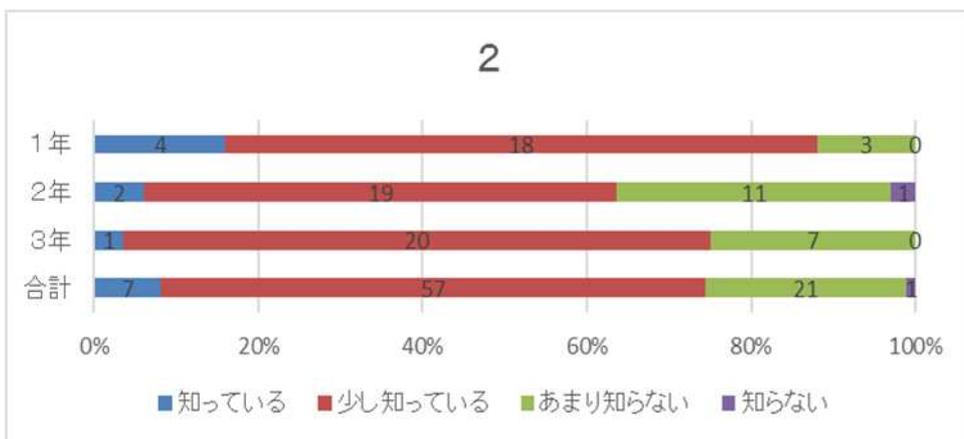
(1) あなたは、税金について興味・関心はありますか。

- ア ある イ 少しある ウ あまりない エ ない



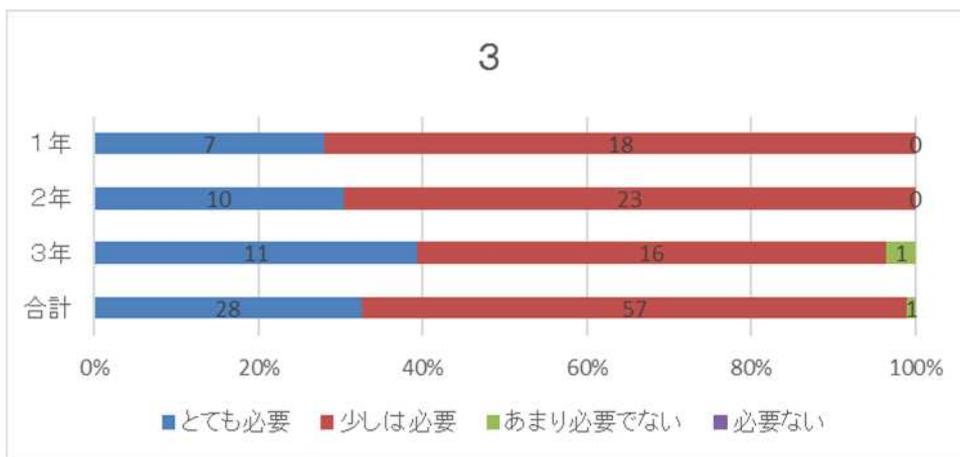
(2) あなたは、納められた税金がどのように使われているのか知っていますか。

- ア 知っている イ 少し知っている ウ あまり知らない エ 知らない



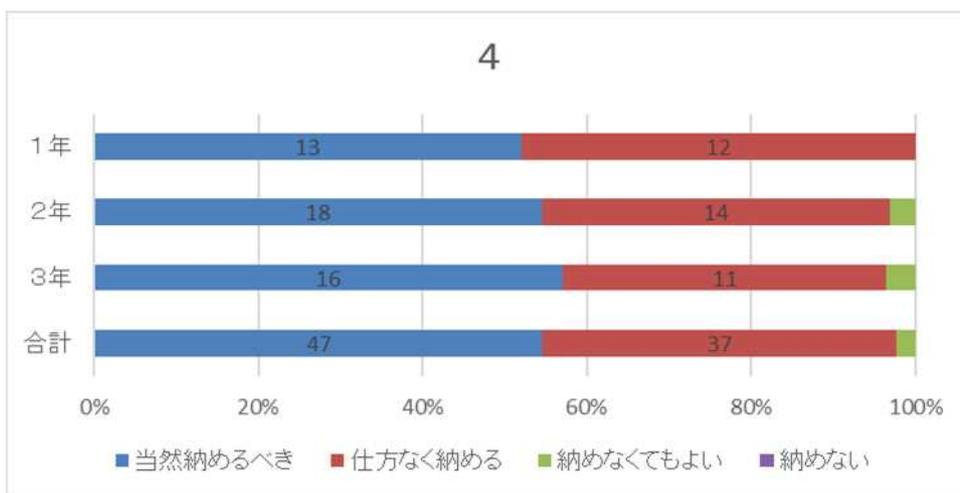
(3) あなたは、税金について学習することは必要だと思いますか。

ア とても必要 イ 少しは必要 ウ あまり必要でない エ 必要ない



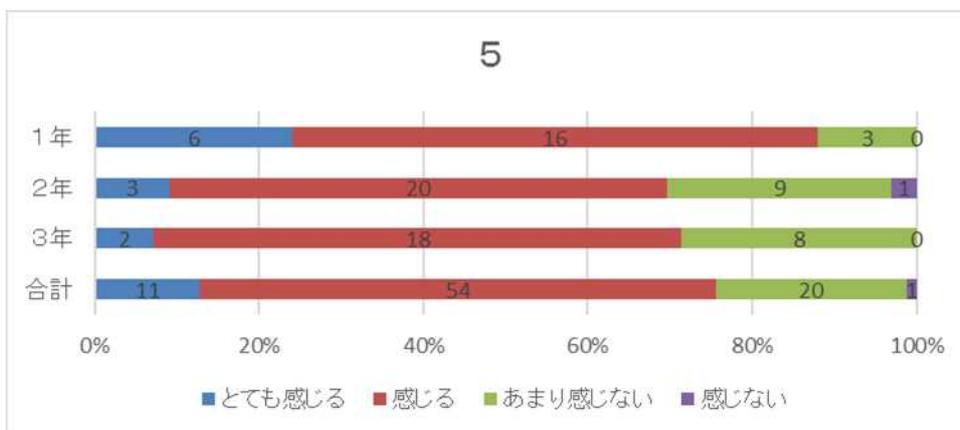
(4) あなたは税金を納めることについてどのように思いますか。

ア 当然納めるべき イ 仕方なく納める ウ 納めなくてもよい エ 納めない

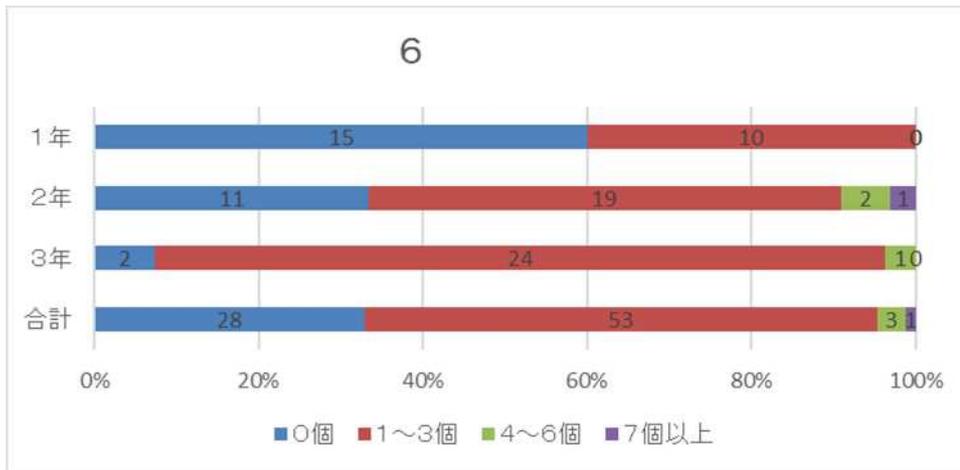


(5) あなたは、税が私たちの生活に役立っていると感じますか。

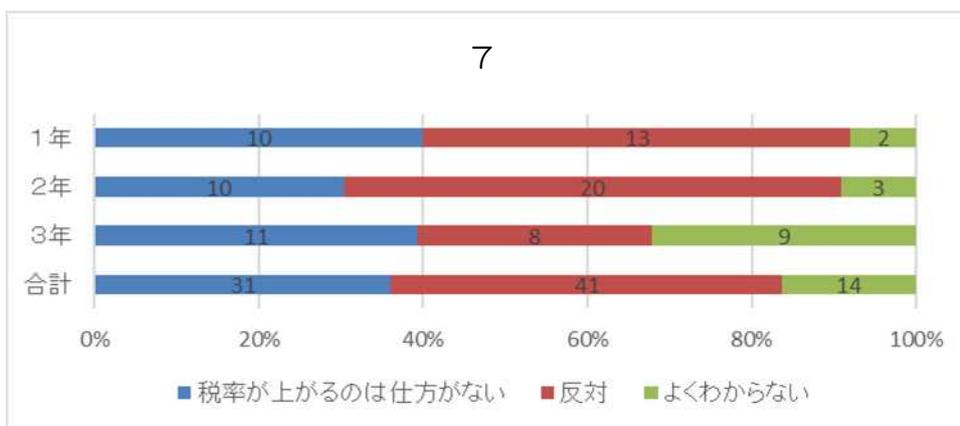
ア とても感じる イ 感じる ウ あまり感じない エ 感じない



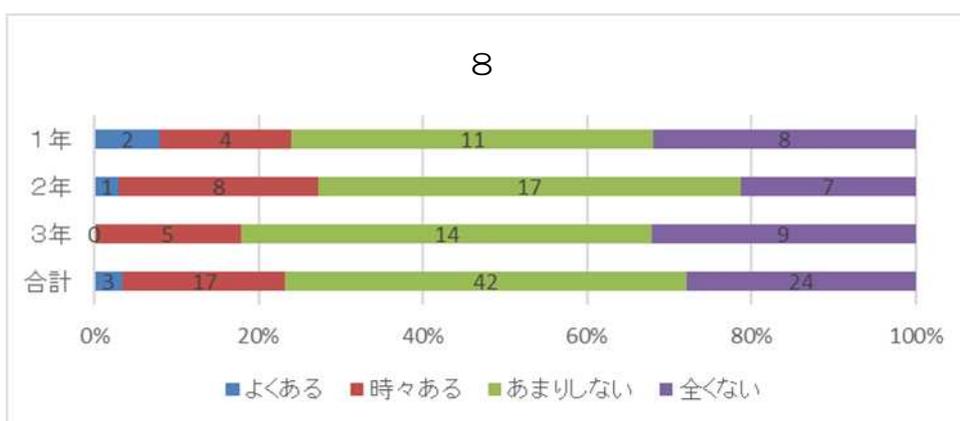
- (6) あなたは、消費税以外の税金の名前をいくつ知っていますか。
 ア 0個 イ 1～3個 ウ 4～6個 エ 7個以上



- (7) あなたは、消費税の税率が上がる動き(例 8%→10%)がありますが、それについてどう思いますか。
 ア 税率が上がるのは仕方がない イ 反対 ウ よくわからない



- (8) 家庭で税金について話題にすることがありますか。
 ア よくある イ 時々ある ウ あまりしない エ 全くない



3 租税教室前のアンケート結果の考察

アンケート結果から、まず、税について興味・関心が低い生徒が多いことが分かる。家庭で税について話す機会が少ないなど、税を身近に感じるものがあまりないのがその理由であると考えられる。一方で、生徒たちは、消費税以外にも所得税やガソリン税、酒税や関税、ふるさと納税など、様々な種類の税について理解しており、さらに税が自分たちの生活になくてはならないものであるということも理解している。そのため、税を納めることの大切さについて、「仕方なく納める」と答えた生徒も含めると、ほとんどの生徒が税を納めることが大切であると認識しているようである。

昨年実施された消費増税に対しては、反対の立場をとっている生徒も多い。しかしながら、3年生に関しては、公民学習が始まり、社会に関心が高まっているせいか、「分からない」と答えた生徒の割合が多かった。

以上のアンケート結果を踏まえて、まずは、税について正しい知識をもつことが大切であるとする。そして、税についての関心を高め、自分たちの生活を向上させるために税が使われていることを理解させることで、将来の納税者としての自覚を高めることができる租税教育を実践する。加えて、家庭でも税について関心を高められるよう、保護者への啓発の方法についても考えていきたい。

4 第一回租税教室の開催

令和元年6月21日（金）6校時（14:45～15:35）

種子島税務署から講師を招いて、生徒が家庭生活や学校生活を送る中で、たくさんの税によって支えられていることや、税の役割に気付かせ、日常生活の在り方を考えさせる目的で実施した。税への関心をもたせるために、税の種類やその使い方、DVD「アナザーワールド」の視聴など、生活に密着した身近なところからはじめて最後は国債残高を宮之浦岳の高さに例える話から少子高齢化にともなう税金の税率が上がる話をしていただいた。

第一回租税教室の様子



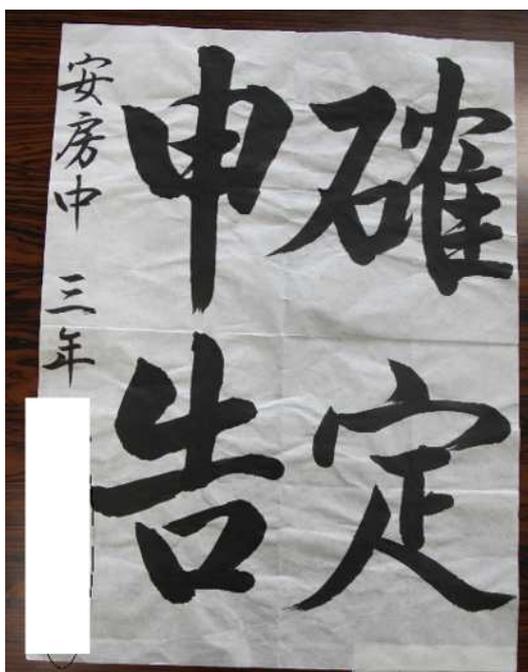
第一回租税教室を受けての生徒の感想

- 私は租税教室を受けて、税金がないと町もきたないし、建物もない生活になってしまうんだと感じました。私は税金が上がるのがいやだなと思っていましたが、ビデオ、話を聞いて必要だと改めて感じました。私は、税金の種類を少ししか知らなくてたくさんあってびっくりしました。(1年)
- 私は、今回の租税教室を受けて、税を納めることの大切さを感じました。DVD で税がない日本を見て、私たちの生活や暮らしは税によって支えられているということを改めて感じました。私は、日本の借金は90兆円くらいだと思っていましたが、883兆円という数字は想像がつかないくらいとても大きな数字でした。今回の租税教室を受けて納税の大切さを学びました。(2年)
- 日本の借金の分、1万円を積み重ねると、屋久島の宮之浦岳が4個分になるほどになるという話を聞いてとても驚きました。税に関する知らないことがまだまだあり、説明を聞いて楽しく感じました。今日学んだことを日頃の生活でも活かし、さらに、租税教室で疑問に思ったところやもっと知りたいと思ったところを調べるようにしたいです。(3年)

5 税の作品への取組

夏休みの課題として「税の作品」へ取り組ませた。作文に関しては全員に取り組ませた結果85人、「書道」は4点の応募があった。作文では、種子島税務署長賞が1名、種子屋久納税貯蓄組合連合会会長賞を2名受賞した。書道では、種子島税務署長賞が1名、種子屋久納税貯蓄組合連合会会長賞を1名受賞した。県租税教育研究校の委嘱を受けたことをきっかけに、「税の作品」への取組は、本校では初めての試みであった。「税の作品」に応募することにより、税に対する興味・関心を喚起することを目的に実施した。以下に示す作品は、「作文」「書道」で賞を受賞した作品である。

(1) 種子島税務署長賞の「書道」作品



(2) 種子島税務署長さんから表彰



「税について考える」

3年女子

税について考えたことのある小・中学生はごく僅かだろう。3年生の後半にある社会の授業で少し学習するが、興味がある人しか深く考えないのではないだろうか。私も今まで、税に関するニュースを見ても何も深く考えなかった。

ある日、社会科の時間に租税教室が行われるということを知った。今年、安房中学校では、税について考える取り組みを行うそうだ。私は、「なぜ中学生が税について考えないといけないのだろうか」という疑問と、「難しそうだな」という不安があった。

数日後、租税教室が行われた。税理士の方が来て、税のしくみや国の財政などについてくわしく説明をしてくださった。初めは、難しそうだと思っていたが、資料などを用いて分かりやすく説明してくださったので、難しいことはあまりなかった。また、それと同時に、税について知ることがおもしろいと感じるようになった。

まず、興味を持ったのは、私たちと税の関わりだ。よく考えてみると、私たちの生活を豊かなものにするためには、税金は欠かせないものだ。安全な道路や学校などの施設、教科書や、警察、消防などは、すべて税金がないことには成り立たない。また、私はこれからの社会に役立てるために、民生費について深く考えるべきだと思う。少子高齢化が進む現在、今のままでは、税金が足りなくなってくるのではないか。社会福祉向上のためには、高齢者のための施設や介護方法などについて見直すべきだと思う。

次に考えたのは、消費税についてだ。私は今まで、「税金は大人が納めるもの」だと思っていたが、よく考えてみると、私たちも消費税を納めているため、立派な納税者だ。この身近な消費税が上がると聞いたとき、過半数の人が不満に思ったのではないだろうか。しかし、税を上げていかないと、未来の生活が豊かなものではなくなる可能性がある。そのように考えると、前向きな気持ちで納税できるようになると思う。

これらを踏まえると、納税は、税金の必要性和使い道を認識した上で行うことが重要だと考えられる。私は、これから、もっと深く税について知り、考えて行きたいと思った。

租税教室を受けると、税に対する思いが変わった。多くの子供たちが税について考えることで未来の日本は豊かなものへと変わっていくのである。今の子供たちが素晴らしい考えを持ち、将来、それを発揮してくれるにちがいない。

6 3年社会科の研究授業を通しての実践（本時の実際(8/8)）

(1) 主 題 「まちづくりのアイデアを提言しよう」

(2) 本時の目標

ア 身近な地域の議会に関心を持ち、身近な地域社会の中で自分にできることは何かを考えようとしている。【関心・意欲・態度】

イ 地域が抱える課題をもとに、地域社会の発展に向けてできることを考え、自分の言葉で表現する。【思考・判断・表現】

(3) 本時におけるこだわりの視点

ア 質問や提言する内容について、根拠をもって理論的に説明させる。【活用】

イ 模擬議会を通じて考えたことや思ったことを自分の言葉で表現させる。【探究】

(4) 主題の考察

本時は、「3 地方自治と住民の参加」という単元のまとめにあたる。主題を「まちづくりのアイデアを提言しよう」として、これまで学習したことを参考にしながら身近な地域の現状を知り、地域のためにできることがないか考えることをねらいとする。

多くの地方自治体でも中学生と首長や議員が地域の政治について意見を交換し合う、「中学生議会」が開催されている。具体的取組として、本校においても身近な地域である屋久島町の課題を考えたり、聞き取り調査やインターネットで情報を集めたりし、グループでその課題を解決するためにはどのようなことが必要かを考え、質問や提言を述べる「模擬議会」を行う。班で課題の解決策を考えて、それを質問や提言するという形で模擬議会にて発言する。事前に町に質問を送り、答弁の文を作成し質問に対しての回答をいただく。そして議会の一般質問の形式で行うことで民主主義の担い役としての意識を高めることができると考える。また、質問や提言をした政策を実現するには税金が必要である。しかし、現在その税金の使い道が悪くあまり効果が得られない政策や、その税金が住民のために使われていない事例も多く発生している。税金の使われ方についても学ぶ良い機会であると考え。アンケートの結果から、公民に関しては、関心のある生徒が22人（76%）であり関心がある生徒が多く、屋久島町の良いところや課題についても総合的な学習の時間で「屋久島学」を学んでおり、知っていることが多い。しかし、町が発行している議会だよりを全く読まないという生徒が20人（67%）であること、また町税の使い道についても知らないという生徒が17人（57%）いる。屋久島町に必要な公共施設や公共サービスは何かという質問に対し、コンビニや公園の意見が多かった。便利な施設が増えると暮らしが豊かになるが、その施設の設定や維持費に税金がどれだけ使われているかはあまり理解できていないように感じる。

そこで、本時では単元のまとめとして本町の議場で、これまでの学習を踏まえて作成した質問を発表させる。行政機関が考えた答弁を読み、一つの政策についてどのような動きや税金が使われることを理解させたい。そして、より良い政策を打ち出し暮らしを豊かにしていくためには財源が必要であること、私たちの生活が税金によって支えられていることに気づかせたい。また、町の収入として住民税があるが、多くを国からの補助金や地方債に依存していることで将来の納税者の意識を育てたい。最後に、ゲストティーチャーとして屋久島町議会議員の方から屋久島を発展させるために町税をどう使っていけばよいかについて講話をしてもらうことで、議会に関心をもたせ、将来の主権者、納税者として主体的に政治に参加しようとする意識を高めたい。

(6) 評価

ア 身近な地域の議会に関心を持ち、身近な地域社会の中で自分にできることは何かを考えることができたか。【関心・意欲・態度】

イ 地域が抱える課題をもとに、地域社会の発展に向けてできることを考え、自分の言葉で表現できたか。【思考・判断・表現】



屋久島町第2次振興計画について学ぶ様子



議会を傍聴する様子



模擬議会の様子



模擬議会の様子



授業者による説明



ゲストティーチャーの話

(7) 生徒による感想

(ア) 議会を傍聴した感想

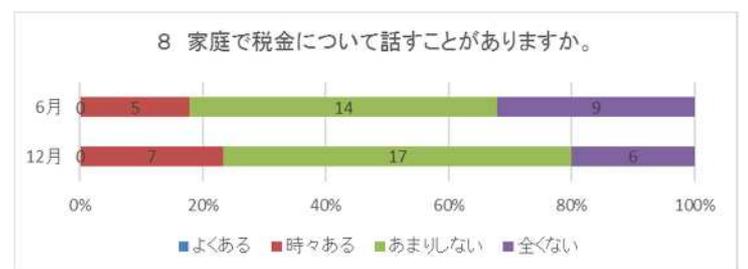
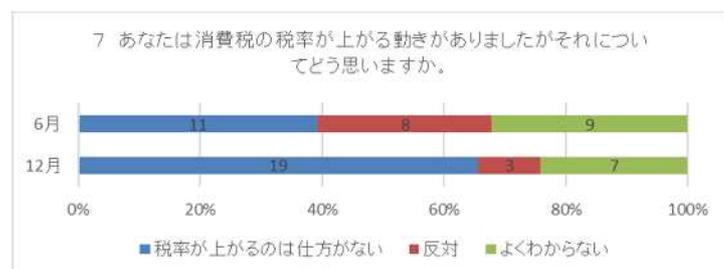
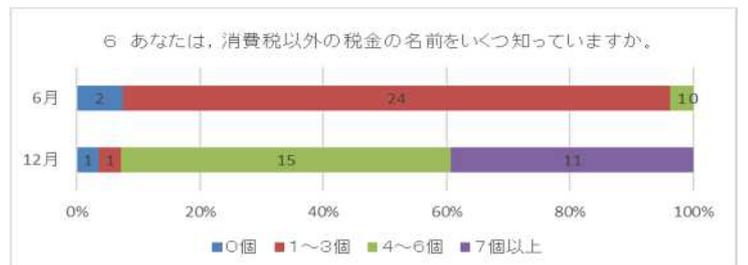
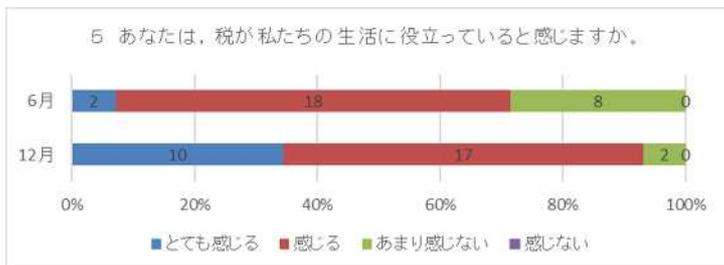
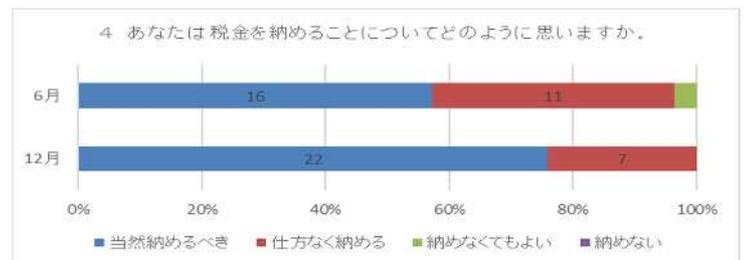
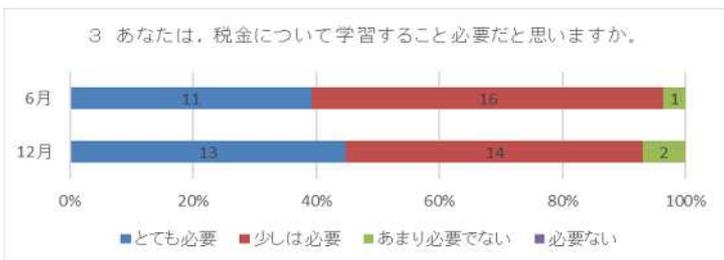
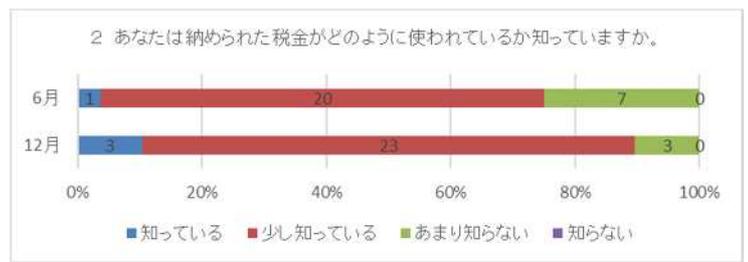
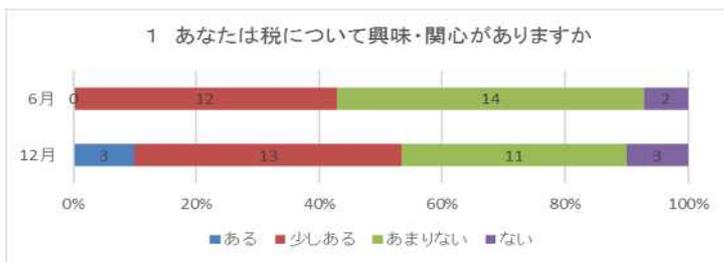
僕は、屋久島町議会を傍聴して「これが本物の議会だ」という雰囲気を感じられ、とても有意義な時間を過ごせたと思います。普段僕らがやっていたディベートとは違って、淡々と話が進んでいるのを見て「無駄がないんだな」と感じました。やはり本物はすごかったです。

(イ) 模擬議会をした感想

模擬議会を通して、屋久島の現状と課題についてさらに深く考えることができました。屋久島を発展させるためには、今回のように町民の意見を反映させることや、良い政策を打ち出すための税収が大切だということが分かりました。私は屋久島高校に進学したいと思っているので、高校へ行ったら、今回の議会で学んだことを踏まえて屋久島のためにできることをやっていきたいと強く思いました。答弁をすることは大変でしたが、答弁をすることで議会の難しさや必要さを改めて感じることができました。「健康」と「平和」を大切にして、納税をしっかりと行い、未来が明るくなるように努力していきたいです。

7 租税教室、研究授業後の生徒の変容 ～アンケート（令和元年12月実施）をもとに～

令和元年度における租税に関する学習を通して、生徒の変容を捉えるためにアンケートを実施し、その結果を以下に示す。（令和元年度の3年生 30名対象）



租税教育を始める前の6月と12月に3年生に同じアンケートを実施した。これまでの取組で調査項目1・2・3・4・5・7の変化に見られるように税に対する興味・関心が高まり、私たちの暮らしに税が必要であり、役立っていると認識している生徒が増えたこと分かる。そして、増税に対しても、「反対」の生徒が減り、増税となった要因を理解できた生徒が増えたことも分かる。6の項目についても消費税以外の税の名前を4～6個、7個以上と答えた生徒が大幅に増えて知識についても理解が深まったことが分かる。

8 令和2年度租税教室の実施

(1) 令和2年6月13日（土）2・3校時、3年生を対象に実施（36名）

九州財務局鹿児島財務事務所、種子島税務署から講師を招いて実施した。日常生活における税の役割について確認した後、実際に国家予算を作成する活動を行った。自分たちの生活を豊かにするには、どの分野にどれだけ予算を配分すれば良いかをタブレット端末を用いて、グループごとに議論をしながら考えた。各グループで作成した予算をそれぞれ発表し、お互いに評価し合うことで、税への関心を高めることができた。

第二回租税教室の様子



グループ内での検討会



各グループからの予算編成の趣旨説明



タブレットを使っでの予算編成



各グループからの予算編成の質疑応答

(2) 生徒の感想

ア 日本の財政の現状について、「これからどうすべきなのか」、「現在の財政状況を改善するためにどうすることが必要なのか」などについて考える良い機会となった。

イ 日本の財政状況について、多くを知ることができた。今の日本の財政状況を改善するとすれば、消費税率を上げ、社会保障等に使えるお金を増やすべきだと思った。

ウ 私は、お年寄りへの年金を少し減らし、教育や子どもたちのために使えるようなお金を確保したら

いいと思う。税は有効に使うべきだと思った。

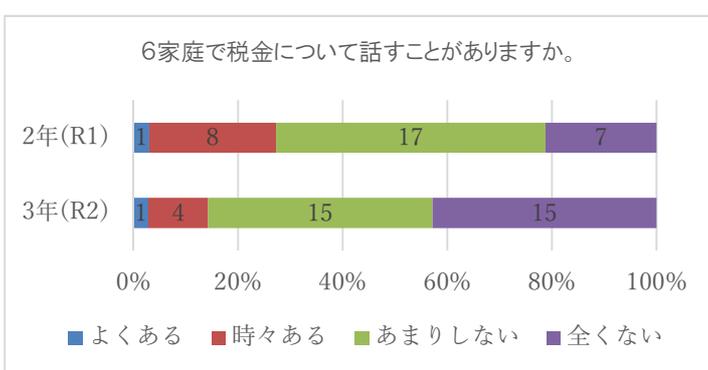
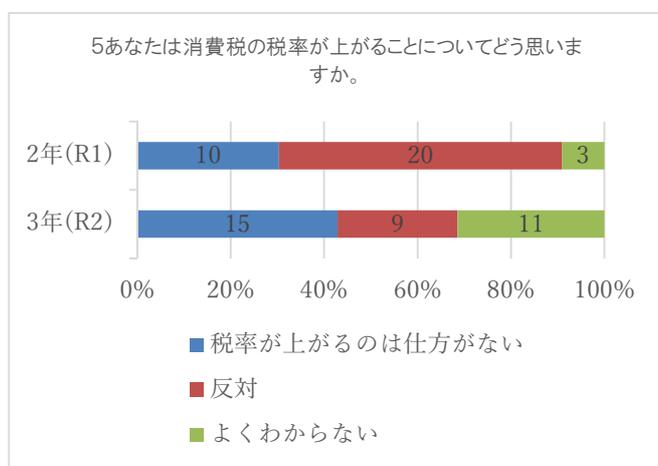
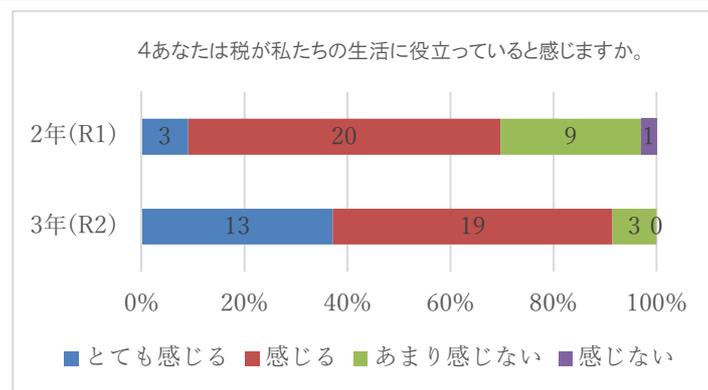
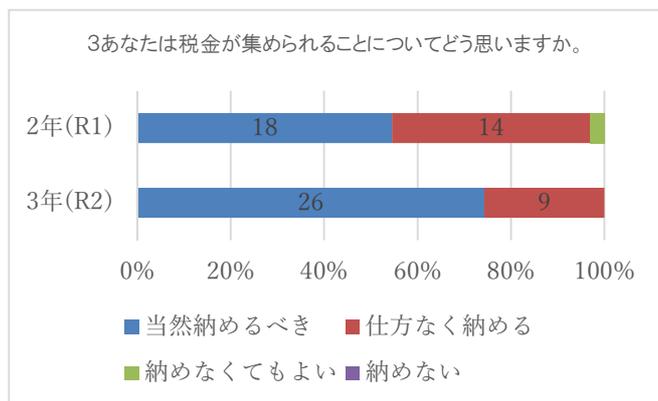
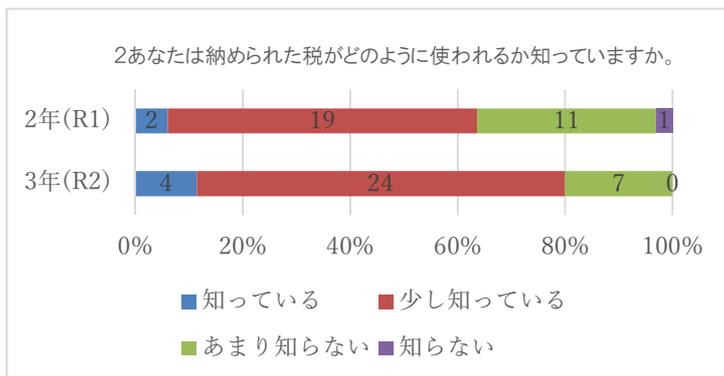
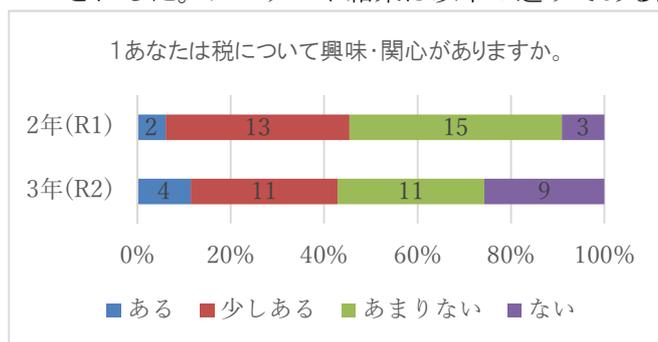
エ 日本の未来のために、自分たちが納めた税金をどこに、どのように、いくら使えばよいか、しっかりと考えるべきだと思う。

オ 日本がこんなに借金が多いとは思わなかった。まずは借金を返済することから始めないといけないと思った。

カ 日本の財政状況に応じて、これからどのような社会を築くべきかをきちんと話し合うことが大切だと思った。

9 令和2年度租税教室後の生徒の変容

3年生 35名（令和2年度）を対象にアンケートを実施した。アンケート内容は、昨年度のものと同じ質問を行った。生徒の変容をつかむため、昨年度の6月に実施したアンケート結果（2年）と比較することにした。アンケート結果は以下の通りである。



アンケート2及び4より、租税学習を行う前の昨年度と比べると税についての知識が深まり、税が自分たちの生活になくてはならない大切なものであると実感した生徒が増えたことが分かる。

また、アンケート3及び5の結果から、税を納めることが当然であると考える生徒が大きく増えた。さらに、税率が上がることを容認する生徒も増えた。税が自分たちの生活の向上に大きく役立っていると考える生徒が増えたことが要因と捉えている。

一方で、アンケート1及び6より、税についての興味・関心をもつ生徒の数が少なくなったり、家庭で税の話をする機会が少なかったりするなど、日常生活における継続的な税への関心が高まりにくいことが課題として残っている。

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

2年間の研究を通して、アンケート結果から分かるように、生徒が税に関する知識を多く得られたことが成果として挙げられる。そのことで、税が身近な暮らしを支えていることに気づき、生活する上で必要不可欠なものであると実感した生徒が増えたと感じる。特に、令和元年度の3年生については、税への関心が高まっただけでなく、税についての知識が増えたことで、より税を身近に感じることができ、将来の納税者としての自覚が高まったと考えられる。さらに、模擬議会の授業後の感想にもあるように、地域の政治にも関心をもち、自分たちの生活をよりよくするためには、税をしっかりと納めることが大切だと感じたようである。さらに、地元の高校に進学し、将来は屋久島を支える人材になるために、これからも学んでいきたいと強く思うようになった生徒もいた。社会参画の意識を高めることができたのは、租税教育の成果の賜物である。

2 研究の課題

令和2年度の3年生（令和元年度の2年生）については、租税教室後のアンケート結果から分かるように、税に関する知識はある程度増え、財政状況を改善することで自分たちの生活や日本の未来がよりよくなることに気付くことができた。しかし、家庭で税について話す機会がないこと、税について日常的に関心をもっていない生徒が多いことなど、税を学ぶことで社会に参画しようという意識を高めるまでには至らなかった。やはり、税について直接触れることのできる模擬議会のような体験型の授業を経験させることが必要ではないかと感じた。さらに、社会科（公民科）だけではなく、全教科で横断的に学習することで、より税について深く捉え考えるのではないかと感じた。今後は、学校全体で税について学習する体制を整えていきたい。

3 おわりに

このような成果が得られたのは、種子島税務署の方々や屋久島町役場の方々の御指導と御協力の下、租税教室をはじめ、模擬議会などの取組が行えたからだと思う。研究授業についても、町政に対する課題について第2次屋久島町振興計画に携わった方をゲストティーチャーとして招いて講話を聞き、町政に対する意識を高め屋久島町の課題を考え、町政に対する質問を考えさせることができた。そして、それぞれの質問に対して教育振興課の方々に答弁内容を考えていただき、回答していただいたものを模擬議会で行政役の生徒に回答させることもできた。さらに、模擬議会本番の前に、実際の屋久島町議会を傍聴することができ、イメージをもって本番の模擬議会に臨むことができた。これらの取組により、生徒は町政に対しての関心が高まり、よりよい暮らしや政策をするには税金が必要であることを理解できたと思う。このように多くの協力を得て取り組めたことに心から感謝している。